

IV-258

公共駐車場の利用分析について

大阪市建設局 正会員 徳本 行信
 大阪ウォーターフロント開発株式会社 藤岡 直樹
 大阪市道路公社 永井 文博
 大阪市道路公社 正会員 持田 繁

1. はじめに

大阪市では都市交通施策の一環として平成3年4月に策定した「大阪市駐車基本計画」に基づき、「駐車需要の抑制」「駐車スペースの有効利用と拡大」「取締強化の要請」「マナーの向上」の4点を基本方針とした総合的な駐車対策を行っている。これに基づき、大阪市・大阪市道路公社では平成17年までに3,500台の公共駐車場の整備を目標に事業を行っており、現在15箇所、約2,800台で供用あるいは事業中である。

本稿では、既に供用されており利用状況が低迷している4駐車場（扇町通、大阪駅前、靱、宮原）の効果的な利用促進策を検討するために利用実態の把握及び路上駐車実態などを平成8年10月～12月に行い、分析した結果を報告する。さらにこの分析をもとに、今後の利用促進方策を提案する。調査対象駐車場の概要は表-1の通りである。

表-1 各駐車場の概要

駐車場名	場 所	整備台数	構 造	供用年月日
扇町通地下駐車場	北区扇町1丁目	262台	地下2階建・全面地下	平成6年7月竣工
靱地下駐車場	西区靱本町2丁目	255台	地下1階建・全面地下	平成7年4月竣工
大阪駅前駐車場	北区梅田1丁目	340台	地下1階・3階・4階・5階・全面地下	平成7年10月竣工
宮原地下駐車場	淀川区宮原3丁目	122台	地下2階建・全面地下	平成8年3月竣工

2. 調査項目および結果

(1) 利用実態調査

各駐車場によって、ピーク時間は異なるが平日、休日とも概ね12～15時がピークとなっている。また、大規模商業地域に近接している扇町通、大阪駅前については休日のピーク時には収容台数の約80%の利用がある。

キーワード 利用実態調査、利用促進策

連絡先 〒530-0002 大阪市北区曽根崎新地1-4-12 TEL 06-344-4692 FAX 06-344-4410

(2) 利用者へのアンケート調査

①利用者の出発地

各駐車場とも平日は市内からの利用者が約50～60%、府下からの利用者が約30%となっているが休日は府下からの利用者が約40～75%となる

②利用者の駐車目的

平日は業務・商用での利用者が約50～80%で一番多く、地下街に近接している大阪駅前では買い物での利用者が約30%の割合を占めている。休日は買い物・娯楽が約40～90%、業務・商用目的が約10%となる。

③目的地までの所要時間

各駐車場とも平日は駐車場から「10分まで」で全体の約90%を占める。休日は、扇町通、大阪駅前については目的地までの所要時間が長くなる。

④駐車場の認知手段

各駐車場とも道路案内標識で認知した利用者は約50～80%を占めている。次いで人に聞いて駐車場を知った利用者が約10～20%である。

⑤駐車場入口までの道路状況評価

宮原については約75%の利用者が「良い」「非常に良い」である。その他の駐車場は約半分が「普通」である。大阪駅前では約15%の利用者が「悪い」という評価をしている。

⑥入出庫のしやすさ

「普通」という意見がどの駐車場でも約半数を占めているが、機械式の大阪駅前では「駐車しにくい」という意見が約20%占めている。

⑦駐車場の選定理由

「目的地に近い」と言う理由が約70～80%占めている。次に多い理由が「路上駐車をしたくない」「いつも利用している」である。

⑧料金評価

「普通」が約50%、「高い」が約30%占めていた。

⑨駐車予定時間

各駐車場とも1～2時間の利用者が多いが休日になると扇町通、靱、宮原は2～3時間の利用予定時間が多くなり、若干利用時間が長くなる傾向にある。

⑩駐車場の利用回数

平日については各駐車場とも、4回以上の高頻度利用者が約50～60%となっている。宮原では初めて利用する利用者も約40%となっている。休日では初めて利用する利用者が約30～50%となる。

（3）路上駐車状況調査

①路上駐車滞留時間状況

20分以下の路上駐車時間のものが平日では約70%、休日では約55%である。

②路上駐車ドライバー像

I. 駐車目的

平日の路上駐車車両の運転者の目的は業務目的が約80%であり、休日は買い物・娯楽目的のドライバーが全体の約50%、業務目的が全体の約40%となる。

II. 目的地までの距離

目的地までの距離は「50m未満」が平日で全体の約70%、休日では約50%、「50～100m」が平日で約10%、「50～100m」が約20%と休日が移動距離が延伸している。

III. 駐車予定時間

駐車予定時間は「30分未満」が平日では全体の約70%、休日では約50%、「30分～1時間」が平日では約20%、休日では40%と休日が長時間化している。

IV. この地区への来街頻度

平日は、「週2回～3回」、「毎日」の高頻度者が約50%、休日は「週2回～3回」、「月2～3回」が共に約20%である。

V. 路上駐車を行った理由

平日、休日とも「目的地に近い」「駐車時間が短い」が2大理由となっている。

3. 分析

休日の駐車場利用者は、平日に比べて利用圏域が広域化しており、しかも初めて利用する割合も高い。

また、同様な傾向が路上駐車ドライバーにも見ることが出来る。

したがって、より分かりやすい駐車場とするため駐車場の位置を示す道路標識を充実するとともに、駐車場位置、料金、営業時間などの事前広報活動も重要となる。

利用者の駐車目的は、平日は業務・商用、休日は買い物、娯楽が多い。また、平日は駐車場所から目的地までの所要時間は駐車場利用調査では5分以内、路上駐車調査では50m以内と目的地まで近距離のものが多く。一般的に自動車利用者は目的地直近まで自動車を利用する傾向があるといえる。

しかし、休日では大規模商業地域に位置する扇町通、大阪駅前地下駐車場では目的地までの所要時間が長くなっている。この事例をさらに分析することにより、利用者の移動距離の延伸の理由を解析し、一般化する必要がある。

このように、都市内の土地利用が連たんだ地域では、こういった要求に応じて駐車場を整備することは、困難である。整備する側からは、いかに分かりやすく使いやすい駐車場の整備をするか、利用する側からは、いかに移動抵抗が少ない駐車場であるかが重要な判断となる。

4. 利用者の立場から考えた利用促進策

以上のことから、駐車場の位置、料金、利用可能時間、駐車場の満空情報などの情報を利用者へ分かりやすく提供するシステムの開発や、駐車時間が30分以下の利用者への優遇措置など、利用者の立場に立った利用しやすい駐車場にするためのハード、ソフト両面からの対応が求められている。

また、平日と休日で利用実態が変化することに見られるように、各駐車場一律に平均値のサービスを行うことでは多様化する駐車需要に対応することができない。利用促進を図るうえからも駐車場の立地特性に合わせたきめ細かなサービスの提供が、公共駐車場に課された課題である。

参考文献

大阪市駐車基本計画 H3. 4 大阪市
公共駐車場の利用実態について

H9. 12 第22回日本道路会議

徳本、藤岡、持田